

学年	中学2年	教科	音楽	科目	音楽 I	単位数	2
教科書名	中学生の音楽上 (教育芸術社) 中学生の器楽 (教育芸術社)			副教材名	音楽のキャンパス② (教育芸術社)		
コース・クラス	中高一貫						

I. 目標

- ・基礎的な音楽表現の技能を身に付け、創造的に表現する能力を育てる。
- ・多様な音楽に興味、関心を持ち、幅広く鑑賞する能力を育てる。
- ・アルトリコーダーの基礎的な知識及び技術を身に付けさせる。

II. 授業のねらい

- ・声の出る仕組みを知るために、歌唱を行う。
- ・声を合わせて歌う喜びを知るために、合唱を行う。
- ・楽器の基礎を身に付けるために、器楽・アルトリコーダーを扱う。
- ・作品の特徴や表現の多様さを感じるために、鑑賞・器楽曲や外国語の歌曲に触れさせる。

III. 授業の進め方

- (1) 正しい発声練習をし、教科書やプリントの曲の歌唱をさせる。
- (2) 映像などを使いながら作品の理解を深めるために、演奏と同時にワークやプリントを扱う。
- (3) それぞれの曲がもつ表現を感じ取るために、さまざまな音楽を鑑賞し、ワークにまとめさせる。

IV. 学習上の留意点

- (1) 発声練習でしっかりと声を出し、正しい姿勢で歌う。
- (2) 教科書、ノート、楽器を忘れず用意し、授業に取り組む。
- (3) 提出物の期限は必ず守る。

V. 定期試験

- 1 学期 中間試験 : 定期試験時には行わず授業内で歌唱試験を行う
- 1 学期 期末試験 : 定期試験時には行わず授業内でリコーダー試験を行う
- 2 学期 中間試験 : 定期試験時には行わず授業内で歌唱試験を行う
- 2 学期 期末試験 : 定期試験時には行わず授業内でリコーダー試験を行う
- 3 学期 学年末 : 定期試験時には行わず授業内で歌唱試験を行う

※各学期に単元別の小テストを行う場合がある

VI. 評価の方法

実技では歌唱テストおよび器楽テストなどを行い、鑑賞ではノートの記載を適切に行なっているかを確認し、評価をする。授業態度(忘れ物を含む)平常点として、忘れ物、授業態度が適切でない者(遅刻・私語・授業に不必要な持参物等)は減点する。

VII. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・発声練習 ・歌唱「夢の世界を」 	実技テスト 提出物 小テスト 授業態度	<ul style="list-style-type: none"> ・関心、意欲、態度をもって「音楽」の授業に取り組んでいる。 ・音楽的な感受や表現の工夫ができる。 ・外国語の正確な発音、歌詞の内容を理解し歌えている。 ・鑑賞 楽曲に対し、その音色、演奏形態、形式などに関心をもって聴くことができる。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞「フーガ短調」 パイプオルガンについて ・楽典、音楽理論 		
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・アルトリコーダー リコーダーの歴史、運指確認 「ラヴァーズコンチェルト」 		
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱「夏の思い出」 ・鑑賞 イタリア歌曲、日本民謡等 		
二学期	9	<ul style="list-style-type: none"> ・発声練習 ・歌唱「サンタルチア」 	実技テスト 提出物 小テスト 授業態度	<ul style="list-style-type: none"> ・関心、意欲、態度をもって「音楽」の授業に取り組んでいる。 ・音楽的な感受や表現の工夫ができる。 ・器楽 意欲をもって実技試験に臨むことができる。 記譜通りに演奏できる。 ・鑑賞 楽曲に対し、その音色、演奏形態、形式などに関心をもって聴くことができる。
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・アルトリコーダー 「きらきら星」 ・合唱の練習 ・鑑賞「アイーダ」 総合芸術について 		
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・アルトリコーダー 「威風堂々」「春」 		
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱「荒城の月」 		
三学期	1	<ul style="list-style-type: none"> ・発声練習 ・歌唱「翼をください」 ・鑑賞 古典派音楽（音楽史） 	実技テスト 提出物 小テスト 授業態度	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽的な感受や表現の工夫ができる。 ・鑑賞 楽曲に対し、その音色、演奏形態、形式などに関心をもって聴くことができる。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・アルトリコーダー「ふるさと」 ・鑑賞「ベートヴェン：交響曲第5番」 ・合唱コンクール練習 		
	3			

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。